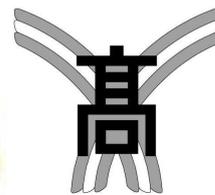


AL道中膝栗毛



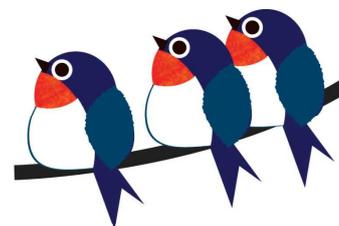
【協同学習について考えてみます③】

協同学習は、次のように定義されています。

協同学習とは小集団を活用した教育方法であり、そこでは生徒達が一緒に取り組むことによって自分の学習と互いの学習を最大限高めようとするものである。しかし、**ただグループに分けて学習させるだけでは協同学習とは言わない**――

では何が必要なのでしょう。文章は、以下のように続きます。

学習者を小集団に分け、その**集団内の互恵的な相互依存関係を基に、協同的な学習活動を生起させる技法が協同学習**である。



ただこれだけ言われても、具体的な授業のイメージはわかりません。問題は、**私たちが授業を構築するとき**に何を意識すればよいのかということです。これについて「真の協同学習では5つの基本要素を満たす必要がある」という記述を見つけました。いわく、①互恵的な相互依存性、②対面的な相互交渉、③個人としての責任、④社会的スキルや小グループ運営スキル、⑤集団の改善手続き、だそうです。

まだよく分からないのでもうちょっと調べてみると、ある程度くわしい説明を読むことができました。以下、数号にわたって紹介します。

【①互恵的な相互依存性】

目標や教材などについて、互いに協力を必要とするような関係を作ること。それぞれの生徒はグループのメンバーを手助けする責任をもち、**全てのメンバーが目標に到達したときにだけ、グループは成功したことになる**。つまり、メンバーは自分の働きが仲間のためになっており、仲間の働きが自分のためになっていることを理解している必要がある。そのためには**協力して取り組める課題を準備しなくてはならない**。成績評価でも、仲間同士の貢献が加算されるような仕組みを入れることが効果的である。

【教員アンケートを実施しています】

締切は明日5月11日(土)です。提出は教務室のアンケート箱です。名票への○印もお願いします。**講師の先生も対象ですので、教科主任の先生は用紙の配付をお願いいたします。**

問4は自由記述欄ですが、できるだけご記入いただくと助かります。昨年度の委員会でも「授業改善も大切だが、結局のところ家庭学習が定着しないことには学力の伸長は難しい」というきわめて当たり前ですがその通りにするのは難しい意見がありました。ぜひ先生方のお知恵とご意見をうかがいたいところです。よろしくお願いたします。